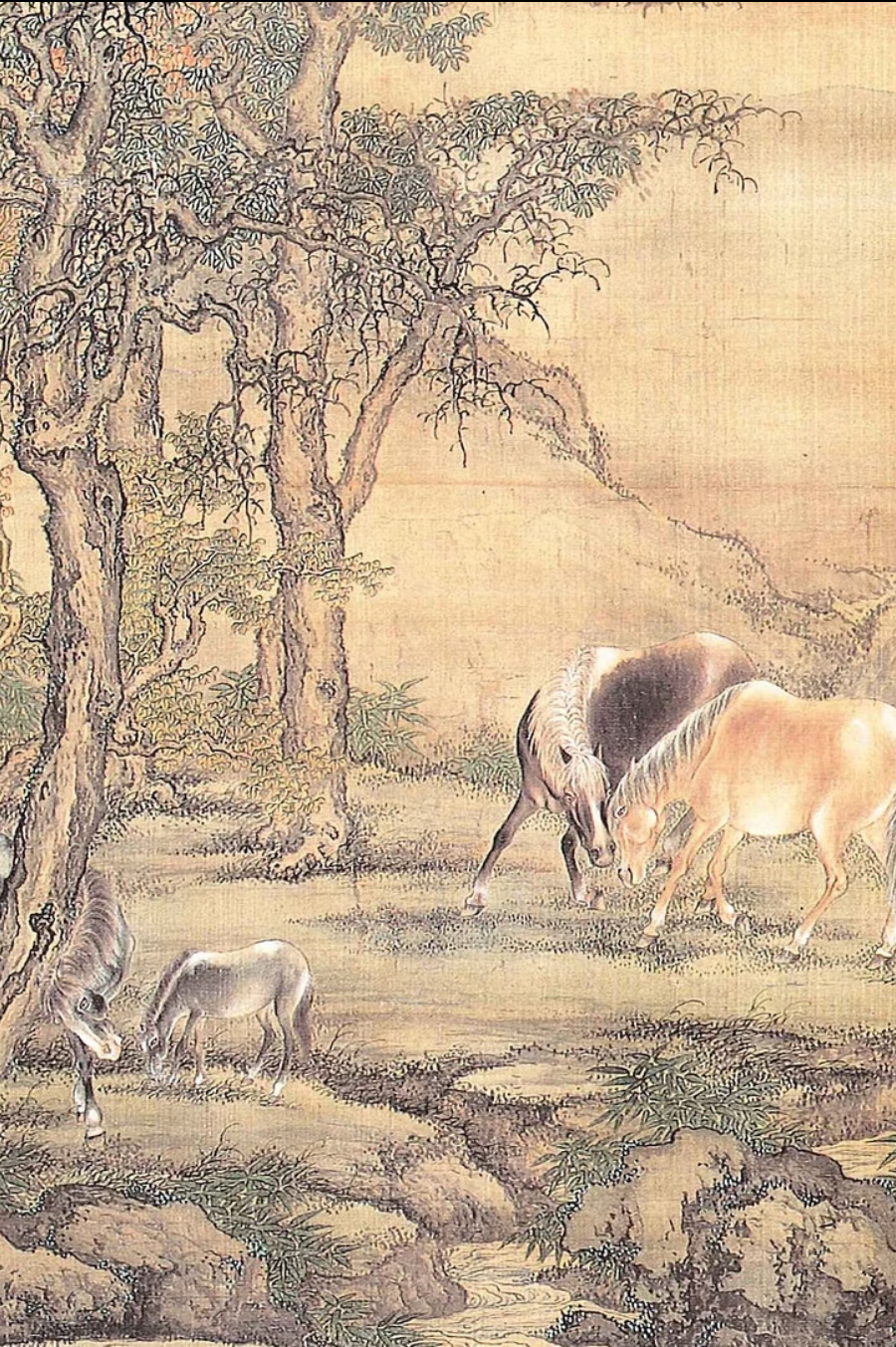


第9回 腹証奇覧・奇覧翼を読む

大柴胡湯他

診方 § 四 診

峯 尚志



今回学ぶ処方

(○は文礼の●は叔虎の解説)

○●大柴胡湯、○柴胡加芒硝湯

●○四逆散、●柴胡飲子

●黄連湯

●旋覆花代赭石湯

大柴胡湯

柴胡、黄芩、半夏、芍薬、枳實、大棗、大黄

脾虚はなく
瀉を主とするために甘草を用いない

○大柴胡湯

図のごとくして胸脇苦満ありて

少しく拘攣有り

凡そ拘攣は、塊物を異なり

指頭に少し拘わり応うるものなり

また、腹少しく実満して心下鞭せず、

痞するばかりなり、よくよく診して考うべし

まえにいう小柴胡湯は

心下痞硬ありて実満なし

これをもって分別すべし



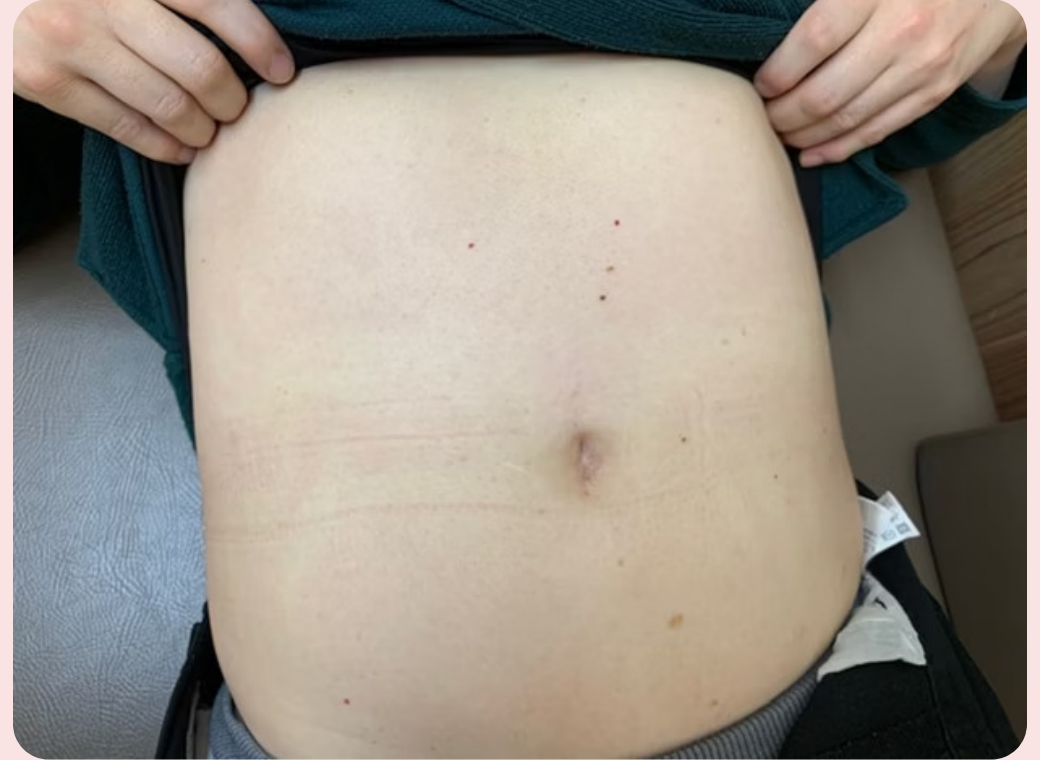
●大柴胡湯

心下急：胃のあたりがつまったように堅い

図の如く、胸脇満して、
心下急（ひつば）り筋張りて、腹底に応じ
之れを按ずに力あり
あるいは固くして息にかかり
上腹は一体に締まりて微満し
（筋肉質スポーツマンタイプ）
或いは腹痛す
（取り締まりなく一面に痛み、
或いは、心下、或いは臍傍と一定せず
之れ、いわゆる満痛なり）
大柴胡湯の腹証なり



54才、女性、不整脈、大柴胡湯合半夏厚朴湯



腹診の特徴は弾性硬、堅いといっても皮下に脂肪を蓄えた弾力のある堅さの場合が多い

大柴胡湯の腹証（大塚敬節）

もっとも定型的な大柴胡湯の腹証では鳩尾が硬くて膨隆し圧を加えると痛みを覚えて息詰まる感じがして左右の季肋下に沿ってやや膨隆して抵抗があり圧痛を覚える圧痛は右に強く、左は抵抗があっても圧痛のないものが多い。

肥満者では抵抗が奥深くにあり見逃すことがある。

大柴胡湯の適応病名

肥満、脂肪肝、胆石高血圧、脂質異常症、動脈硬化

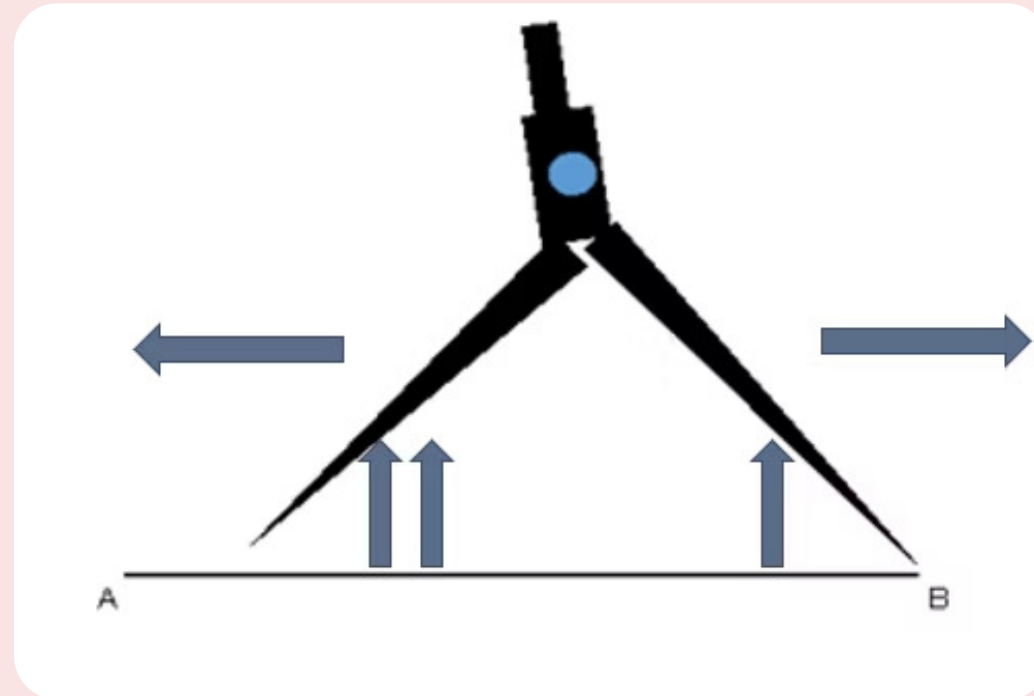


肋骨角は九十度以上に開大、腹が実満しているので手を押し込めない
胸脇苦満強いが余裕がある
首肩も分厚く凝りが強い。皮下脂肪があつく猪首の場合がある

胆道系疾患には大黄が必須

- 毛細胆管拡張作用
- Oddi筋弛緩作用、鎮痙、鎮静作用
- 抗菌作用：アントラキノン類、特にaloe-emodin
- 腸内嫌気性菌であるBacteroides fragilisは通常は空腸以下に存在するが、腸の運動低下時には十二指腸まで上がり、胆嚢炎を起こす。大黄の抗菌作用と通便作用が相乗効果をもたらす。B.Fは抱合型胆汁酸を脱抱合して刺激の強い遊離型に変換し、胆嚢炎をひき起こす。
- 寝たきりの人は、菌が上部に侵入しやすい
- Rheinに胆嚢炎の起炎菌のBacteroides fragilisに対する強い抗菌作用。

腹部脂肪や腫大した肝臓により横隔膜が押し上げられ、胸肋角が開く



横隔膜が固まって呼吸が浅くなり、気機の阻滯が起きる。緩めて下す瀉法の出番なり

○甘草乾姜湯と大柴胡湯の合方の証

甘草乾姜湯、胸中煩躁急迫（胸中寒）
時に涎痰を吐するもの之れなり
小便不利、俗に「夜尿（よばり）たれ」と
いうものこの証多し
八味丸の証もまた考うべし。

図の如く、2方相合するもの
前の図にいう大柴胡湯、胸脇苦満、腹実満
2方の証に比すれば、大柴胡湯の毒最も深し
甘草乾姜の毒、胸中にありて浅しといえども
まず先に、上より順に治療をなし、
後に大柴胡湯を持ちうべし
夜間、冷えて頻尿のもの
大柴胡湯合八味丸の症例もあり
（大柴胡湯証の人が年をとって八味丸証が出てくることあり）



柴胡加芒硝湯

大柴胡湯1 / 3 + 芒硝二兩

柴胡加芒硝湯

図の如く胸脇苦満して
二大竹を立てるが如く
之れを按じて堅きものあり
之れ堅満なり
故に芒硝を加う
芒硝は堅き毒を治するものなり
しかるに世の腹診に暗きもの
これをもって小建中湯の証
あるいは芍薬の証とする
大いに誤りなり



柴胡加芒硝湯

- 文礼は小柴胡湯の1 / 3量に芒硝を加えるのではなく大柴胡湯に芒硝を加えている
- 少陽にこもった熱に加えて日晡所潮熱の陽明証が出現した場合
- まず小柴胡湯を与えて、半表半裏の熱を清した後
- 柴胡加芒硝湯を与えて陽明の熱を除く（先少陽後裏）
- 芒硝は硫酸マグネシウムあるいは硫酸ナトリウムで軟堅作用があり、燥屎をやわらくして通便する

四逆散

柴胡、芍薬、甘草、枳実

○四逆散

図の如く

胸下の左右、心下或いは胸下の傍
皆実満して

例えば大柴胡湯の腹に似て

胸郭実満、逆満して

苦痛もまた甚だし

前の章にていう心下痞硬のもの

この証多し



江戸の心身医学の名医和田東郭は 五、六割の患者に四逆散を用いた

雑病人、百人治療すれば、五、六十人は此の方の応ずる証極めて多し
中医学では肝鬱気滞の基本処方

四逆散の覚え書き

- 心下痞硬、胸脇苦満、腹直筋が攣急し、上腹部が板のように触れる。
- 症状としては、腹痛、腹満、咳、動悸、尿利の減少、神経不安
- 女性の加味逍遥散に対し
- 男性の四逆散とも言われる
- 疾患としては急慢性胃炎、神経性胃炎、胃潰瘍、十二指腸潰瘍、胆嚢炎、胆石、神経症、慢性膀胱炎、鼻炎、蓄膿症など

○四逆散

- 柴胡 6、芍薬 6、枳実 6、炙甘草 6
- 主治：肝鬱気滯、肝脾不和
- 病機：陽気内鬱
- 鬱阻された陽気を疏達通暢する。
- 抑うつ感、憂鬱感、いらいら、胸脇苦満感、腹満、腹痛、下痢、脈弦
- 病変が三焦に及ぶと多彩な症状が出る。

症例：68才、男性

主訴）頻尿

現病歴）数年前より排尿回数の増加に悩んでいる。最近では30分に1回で、夜間尿も数回あり、ひどい時は間に合わず漏らすこともある。近医でベシケア服用しているが改善せずX-1年7月当院を受診する。

現症）苦悶様顔貌、尿のことが気になって気になってしかたない。

脈は弦。舌は淡紅色で白苔を認める。腹部は臍周囲の腹直筋の緊張と臍下不仁を認める。

また背部は胸椎の9番から12番にかけて筋肉が硬結し盛り上がりをも認めた。

以上の所見よりツムラ四逆散7.5 g と牛車腎気丸7.5 g を処方した。

経過）今までどんな薬も効かなかったが、この処方で初めて1時間尿が持つようになって、切迫感も改善した。その後、牛車腎気丸合八味丸や猪苓湯を処方するも無効。四逆散が著効したことが分かった。

西洋医学的診断を得るため泌尿器科を紹介。

前立腺肥大の程度は軽く、残尿は認めず、過活動膀胱、心因性頻尿の診断であった。

腹証

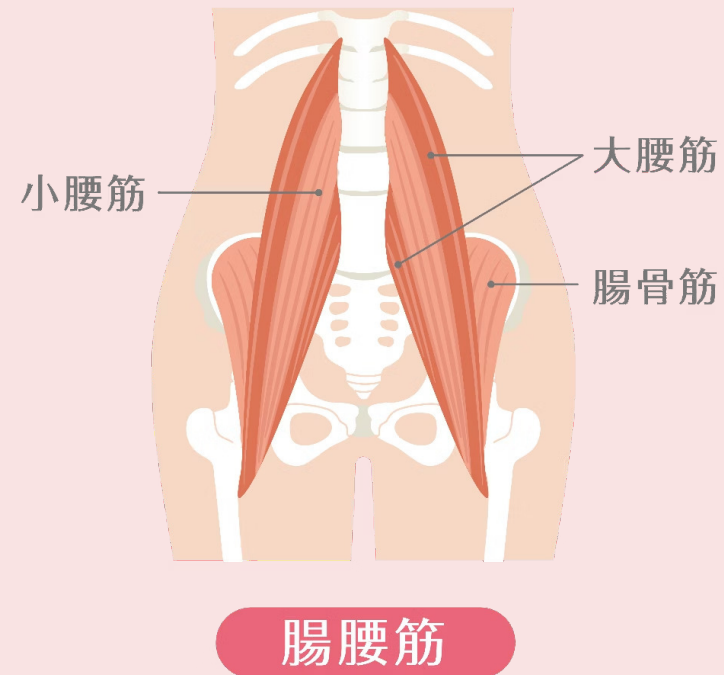
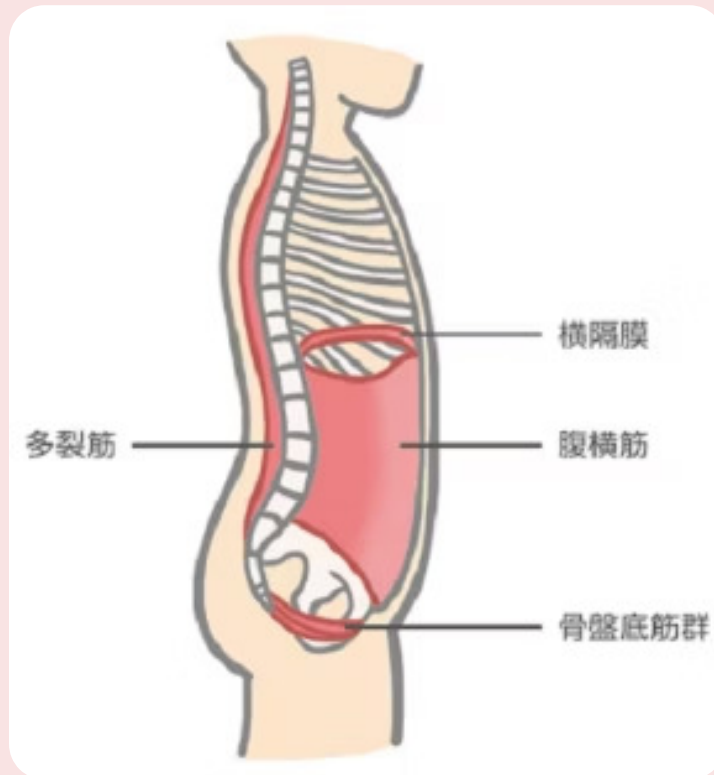


強い胸脇苦満と上腹部の腹直筋緊張。腹全体が堅い
下腹部正中は力なく臍下不仁を認める。

首が前に出て背部の後弯が強く、緊張している。
後弯が強いためクッションをしかないと仰向けになれない



四逆散証では横隔膜—多裂筋—腸腰筋—腹横筋—骨盤底筋の連動が阻害されている。



四逆散証は背部の筋緊張に注目

本例においては、腹面の胸脇苦満、腹直筋の緊張とともに背部の筋肉の緊張を顕著に認めている。

このように四逆散証では胸椎7, 8, 9番から12番あたりまでの背筋の緊張が顕著にみられることがあるので、腹部所見だけでなく背部の観察も行うことが必要となる。

また緊張は骨盤底筋にまで及び、膀胱の過敏性につながっている。

抑うつ傾向も強く四逆散にて疏肝し、心身の緊張を緩和することが治療につながったものと考えている。

柴胡飲子 金匱要略

- 柴胡、檳榔、陳皮、生姜、桔梗
- 冬には白朮を加える
- 春には枳実を加える
- 夏には、白朮、枳実、甘草を加える
- 秋には白朮を加えて陳皮の量を少なくする。
- 四逆散の変方といわれる
- 時々、マラリアのように熱を出して、二、三日苦しむもの
また脚気のはじまりで悪性熱性病のような発熱をおこすもの。

黄連湯

黄連、人參、半夏、甘草、乾姜、大棗、桂皮

半夏瀉心湯去黄芩加桂枝黄連

桂枝去芍薬湯の方意あり

黄連湯

図の如く

胸中に熱ありて、

モヤモヤとして苦しく

心下より臍上に至りて痛み

之れを按すに、硬くして乾嘔するもの

黄連湯の証とす。

(胸中に熱あり、胃中に邪氣有り)

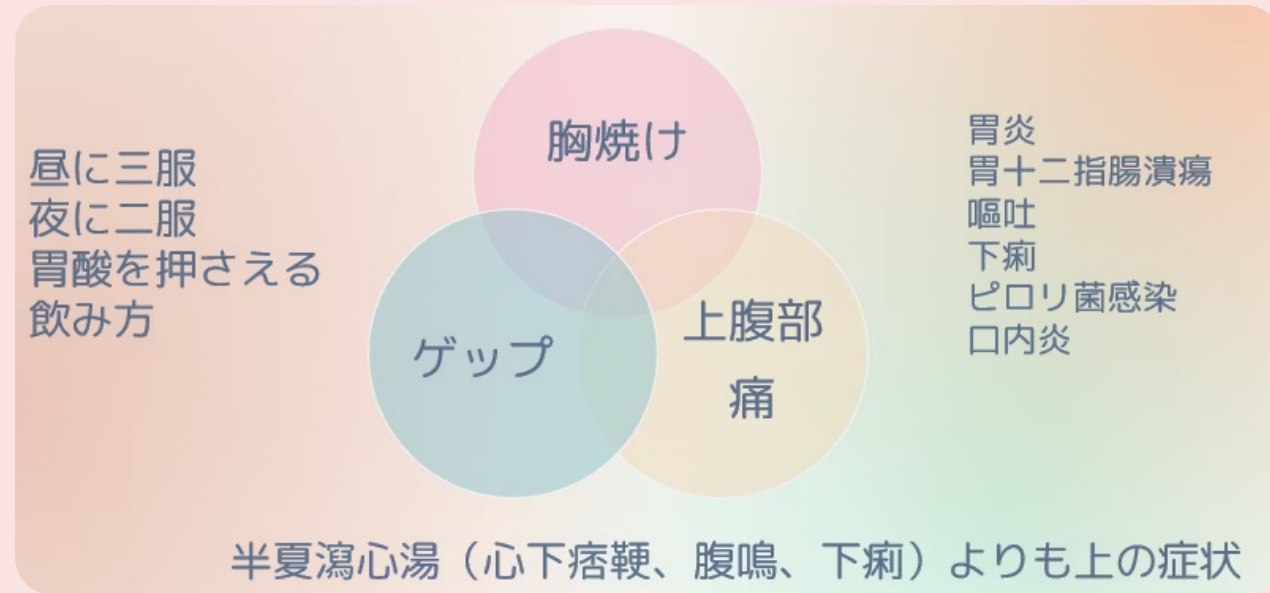


方解

- 君薬の黄連は胸中の熱を清する
- 臣薬の乾姜は胃中の寒を温める
- 半夏は佐薬として黄連を助けて降逆し嘔吐を止める
- 人参は佐薬として乾姜を助け中を補い腹痛を除く
- 桂枝は外を安じ、大棗も外（内？）を安ず。
- 甘草で諸薬を調和し、寒熱を整える

胸中に熱有り胃中に邪気有りは胃中に寒ありとの解釈多し

黄連湯の目標



黄連湯の舌所見

- 舌苔の模様、奥ほど厚くかかり少し黄色みを帯びて、舌上潤滑なるもの
- 乾嘔の証あるときは腹痛なしといえどもこの方を用いて効あり
- 口臭と舌苔の厚さを目標に使用される

黄連は強力な抗生物質

- 主成分はアルカロイドのベルベリン
- グラム陽性菌のほとんどすべてと、グラム陰性菌の一部にも比較的低濃度で制菌作用を認める
- 特に赤痢菌に有効、その他、ブドウ球菌、溶連菌、ジフテリア菌、コレラ菌
- 腹痛、嘔吐、下痢を来す細菌性下痢に有効
- アクネ菌にも有効
- 鎮静、降圧効果

黄連湯の応用

- 急性胃炎、慢性胃炎
- 冷えた萎縮性胃炎には無効
- 口内炎

旋覆花代赭石湯

旋覆花9，代赭石15，人參6，半夏9，炙甘草6，生姜9，大棗4

胃虚を補い、痰濁を化して気逆を下降させる

旋覆花

- キク科オグルマの頭花
- 性味：苦、辛、鹹、微温
- 帰経：肺、胃、大腸
- 消穀降気平喘
- 降逆止噯（ゲップ、おくびを止める）

心下部の痞えを和らげ、おくびを治す。

また心下部の痛みをとるとにかく心下部硬く張りつかえ、他薬にて治し難きものに用いて効をみる機会多し。（荒木性次『新古方薬囊』）



代赭石

- 天然の赤鉄鉱
- 性味：苦、寒
- 帰経：肝、心包
- 平肝清熱
- 沈逆降気
- 涼血止血
- 肝陽上亢の眩暈耳鳴り、気逆不降の噯気、嘔吐、反胃、痰喘、血分有熱の吐下血、崩漏滯下などに用いる



旋覆花代赭石湯



図の如く
心下痞硬して
その人、常に噯気（おくび）を患い
大便硬く、若しくは反胃、
若しくは嘔逆（えつぎゃく：しゃっくり）
若しくは食噎（しょくいつ：むせぶ）
等の患いあるものは
旋覆花代赭石の証なり
凡そ嘔吐の諸症、大便秘するものに効あり
故に妊婦の悪阻（つわり）もまたこの方の証あり
反胃噎食気逆して、降らざるものを治するに神効

旋覆花代赭石湯（別名噯気散）の応用

- 気滞、胃気上逆
- 心窩部の痞え、噯気（ゲップ）
- 胃濁不降による悪心嘔吐
- 腹満、腹鳴、便秘

再煎して飲むのもよい

生姜瀉心湯の虚証に用いるとの説有り

代赭石がないときは牡蠣で代用

胃がんで弱った患者さんのゲップや、食物の通過障害があるときにもよい。

下痢している場合にいいが、便秘している場合も自然にでる場合があり、大黄などの瀉下剤を用いずにすむことあり。

再煎すると気味がやわらかくなるので弱った患者さんにも使いやすくなる。

症例 68歳、女性

主訴) ゲップが止まらない

半年前から上記症状があり、上下部消化管内視鏡を含めて全身の精査を行うが異常なく、数件の医院や病院を回るが、全く改善しない。病院消化器内科からの紹介状を持参して来院。

職業：介護職

抑肝散加陳皮半夏、半夏厚朴湯、小半夏加茯苓湯、茯苓飲などにても無効のため煎じ薬にて旋覆花代赭石湯を処方する。

すると一日飲み終わった時点でげっぷがでなくなり、いい調子が続いている。

3ヶ月服用の後、腰痛、肩こりなどの処方に変方するが、再発することなく経過観察中である。

なお旋覆花代赭石湯はOTC薬がある。

まとめ

大柴胡湯はしっかりとした胸脇苦満があり、柴胡剤の中でも瀉の側面の強い処方。甘草などの補脾の生薬がなく、疏肝理気すると同時に肝胆道系の邪熱を取り除く処方で、脂肪肝の患者さんをイメージするとよいと思います。

四逆散は強い胸脇苦満と同時に背中筋の緊張がストレスによる、季肋部や背中の張りや腹痛を治すと同時に、神経性の頻用にも有用な場合があります。

黄連湯は胸中に熱あり、半夏瀉心湯の黄芩を抜いて桂枝と黄連を加えた処方で、みぞおちの痞えや痛み、胸焼け、ゲップに用いられる。桂枝と黄連で気を下げながらも巡らせる処方となっています。

旋覆花代赭石湯は、人参、甘草、生姜、大棗で脾を補いながら、旋覆花、代赭石で気を下ろし、胃腸が弱った患者さんのみぞおちが痞えてゲップや、食物の通過障害を治す処方です。難治性のゲップやしゃっくりの患者さんがいたら是非覚えておきたい処方です。